



質問予定

①福祉施策 ②地域間格差の解消 ③事業の精査

市民の声

質問予定の内容

福祉施策

通勤通学の 同行援護利用

通学の際に同行援護(視覚障がいにより移動が困難な方の外出時に支援者が同行し援助するサービス)の利用がバス停などからでは許されず負担が多い。

通学における同行援護について、保護者の負担軽減のため**自宅以外からのサービス利用開始・終了ができるようにすべき**と考えるが現状と見解は。

地域間格差の 解消

民間商業施設 への公共施設

公民館などが近くにない地域において大型商業施設内に市民が利用できるスペースの設置を上尾市として進めてほしい。

公共施設の配置に地域ごとのばらつきがある中で、**民間商業施設への公共施設の設置を積極的に進めていくべき**であると思うがいかがか。

事業の精査

申請書類

他の自治体では来庁しなくても提出できる書類が上尾市では市役所の窓口でしか受け付けていないものがある。改善をしてもらいたい。

各申請書類等について、定期的に来庁が必要かどうかなど、**市民の利便性を高めるための精査を実施すべき**ではないかと考えるが現状と見解。



質問の項目

- ①福祉施策→合理的配慮の提供の義務化、障がい者のキャリア形成
- ②地域間格差の解消→市民意識調査の結果の反映、原市沼調節池事業
- ③事業の精査→予算編成過程の透明化、監査、事業の必要性の精査

議案に対する質疑で専決処分の理由について市長に直接質問



6月3日、6月定例会の議案への質疑が行われ、『専決処分の承認』について、臨時議会を開催せず専決処分するという判断をした理由について質問をしました。
 専決処分の判断を行うのが市長であるため、**市長を答弁者として指定させていただきましたが、1回目の質疑では部長からの答弁**であり、再質疑で判断における市長の役割を改めて問い、そこではじめて市長が答弁をしました。
 市長は当初部長答弁とした理由を「専決処分は当然の判断だから」と答えましたが、**「当然」が決めるのは提案者である市長ではなく審査をする議会の私たち**です。引き続き市民の声を反映できるよう、訊くべきことをしっかりと訊いていきたいと思っております。

えびはら直矢プロフィール

昭和62年12月3日生まれ。
 ●上智大学法学部卒
 ●首都大学東京社会人類学教室修了。
 国連UNHCR協会職員などを経て、
 大島あつし衆議員議員公設第一秘書。

大学在学中に市民団体を設立し、子どもたちの放課後を考える団体など複数の団体の運営に携わってきた。2017年に上尾市議会議員に当選(現在3期目)。現在、政策フォーラム・市民の声あげお会派代表、環境審議会委員、上尾、桶川、伊奈衛生組合議員など。
 家族:妻、長男(8才)、長女(7才)、次男(5才)

市政へのご意見やお困りごとがございましたらお気軽にご連絡ください →FAX 048-677-1676

お名前

ご連絡先

ご意見やお困りごとなど

えびはら直矢市政報告



2024年5月号
2024.5.27

発行人 海老原直矢

〒362-0026 上尾市原市北一丁目14番地9 TEL. 048-716-7323

E-mail. ebihara116@gmail.com <https://www.ebihara-naoya.com/>



地域間における格差が明らかに 「住みよさ」の格差を解消する施策を

市民意識調査の結果に基づいて格差解消の施策を実施することが必要

令和6年6月定例会は6月3日から6月21日まで開催されます。今定例会の一般質問で取り上げるのが、地域間における格差の解消です。

今年3月に公表された『令和5年度 上尾市市民意識調査結果報告書』を見ると、「あなたは、上尾市を住みよいまちだと思いませんか」という問いに「住みよい」と答えた方は市全体では69.8%ですが、この割合は原市地区では51.0%、平方地区では60.3%と全体と比較すると非常に低い割合となっています。その一方で大谷地区は78.2%、大石地区は75.5%、上尾地区は72.9%、上平地区は72.7%であり、地域によって大きな隔りがあることがわかります。

このこと自体大きな課題ですが、より深刻な問題は、この傾向が長年にわたり解消されていないことです。原市地区については昭和の時代から一貫して「住みよい」と答える割合が低く全体との差は拡大する傾向にあります。平方地区については当初は他地域と差が少なかったにもかかわらず市全体の数字が上がっていく中で取り残されてしまっています。

この結果を踏まえ、地域間に住みよさの認識の格差につながる課題があることを認め、その解消に努めることは市として当然のことであると考えます。これまでの施策も含め、質問の中で追及をしていきたいと思えます。



キーワード

上尾市市民意識調査

市民の意向・要望を把握するための調査で、結果は長期的な施策にも反映してきたとされる。

昭和51年に開始され、11回目となる調査は令和5年11月に市内在住の18歳以上の市民3,000人を地区のバランスを考慮したうえで無作為抽出により選定して実施された。



データでみる

地域による満足の隔り

	昭59	平20	平30	令5
全体	56.3%	57.4%	65.2%	69.8%
上尾地区	62.4%	61.3%	72.3%	72.9%
大谷地区	60.4%	56.9%	67.9%	78.2%
大石地区	60.0%	61.6%	70.2%	75.5%
上平地区	48.5%	60.6%	62.9%	72.7%
原市地区	45.2%	41.4%	41.6%	51.0%
平方地区	56.1%	54.3%	54.1%	60.3%

地域により満足度に大きな隔りがあり、原市・平方地区で低さが顕著

(参照)『上尾市市民意識調査結果報告書』

『令和5年度 上尾市市民意識調査結果報告書』はこちらの二次元バーコードからご覧いただけます。



一般質問は6月13日(木) 午前9時30分より行います。

傍聴にお越しく下さい。また、インターネット中継でもご覧いただけます。

(<https://smart.discussvision.net/smart/tenant/ageo/WebView/rd/council.html>)